

昭島市教育委員会 殿

昭島市立昭和中学校

校長 並木 浩子



令和5年度教育課程について（届）

このことについて、昭島市立学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

人間尊重の精神を基調に、一人一人の個性を伸長し、国際社会に貢献できる人間性豊かな生徒として、

1 自ら考え、ともに学び、積極的に行動する生徒 (知)

2 互いの人権を尊重し、思いやりのある生徒 (徳)

3 心身ともに健康な生徒 (体)

を育成する。

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 人権教育の推進

(ア) 全教育活動を通じて心の教育を推進し、自尊感情、自己有用感の育成に努める。

(イ) 偏見、差別意識、いじめ、不登校等の未然防止を推進する。

(ウ) 男女平等教育を適切に推進するとともに、多様性への理解と思いやりを育む。

(エ) 国際社会において活躍できるグローバルな人材の育成をめざし、国際理解教育を推進する。

(オ) 特別支援学級との交流をもとに、インクルーシブ教育を推進する。

イ 確かな学力の定着

(ア) 基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、これらを活用した課題解決能力育成のため、言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びを通して生徒の思考力、判断力、表現力等を養う。

(イ) タブレット等のICT機器を日常的に活用して、主体的・対話的で深い学びを追究する授業改善に取り組む。

(ウ) 習熟の程度に応じた指導や個別指導、T.T、グループ指導、ICT機器の活用など多様な指導方法や指導体制を工夫し、個別最適な学びを保障する指導に取り組む。

(エ) 各学力調査の結果を的確に分析・把握し、授業改善推進プランを作成し指導法の工夫・改善に努める。

(オ) カリキュラム・マネジメントの観点から教育活動を見直し、弾力的かつ効果的な運用を進める。

ウ 健全育成の推進

(ア) 基本的な生活習慣、規範意識、心身の健康、適切な人間関係の構築能力を育成する。

(イ) 体育・運動能力に関する調査結果を元に、保健体育・部活動を通して体力の向上を図りつつ、栄養士等と連携した食育の推進と「元気アップガイドブック」の活用により、心と体の健康づくりを推進する。

(ウ) 安全、防災教育を推進し、大規模災害発生時の適切な対応や感染症予防について計画的な指導を行う。

(エ) 小中連携教育を推進し小学校から中学校への接続を円滑化させ、中一ギャップを防止する。

(オ) 家庭、地域、学校の役割を明確にし、連携を密にして、地域ぐるみで健全育成を推進する。

(カ) スクールカウンセラー等の専門職や地域人材を活用し、関係機関と連携したチーム支援体制を確立する。

(キ) 食物アレルギー疾患対応マニュアルを活用し、生徒の命に関わる重大事故の発生を予防する。

(ク) 校内委員会を開催し、支援が必要な生徒に学校生活支援シート及び個別の指導計画を作成し、個の状態に応じた丁寧な指導、支援を行う。またICT機器の活用やくじらーニング等で学習を支援する。

(ケ) 副籍制度の推進や、交流及び共同学習の推進を行う。

2 指導の重点

(1)各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動等

ア 各教科

- (ア) ガイダンスシラバスを活用して、生徒が到達すべき目標を定め、自己学習力を高める。
- (イ) 東京方式ガイドラインに基づいた数学科、英語科の少人数習熟度別指導、保健体育科のチーム・ティーチング等により、習熟に応じて補充的な指導や発展的な指導を進め、個に応じた指導の充実を図る。
- (ウ) 基礎的・基本的な知識・技能の習得のため、放課後や長期休業日中の自習教室を実施する。
- (エ) 計画的に課題を示し、eライブラリの活用法等を工夫して、家庭学習を習慣化し学力を定着させる。
- (オ) 社会科、理科、総合的な学習の時間を中心に、SDGsの観点から環境教育を包括的に推進する。
- (カ) 学校支援員等を活用し漢字、英語、数学の検定取得を推進し、学力を向上させ、達成感を体得させる。
- (キ) 「昭島市立学校 教育のユニバーサルデザイン」を元に、教育のユニバーサルデザイン化を実現する。
- (ク) 学習指導要領の趣旨を踏まえた適切な指導と信頼性と妥当性のある評価を行う。
- (ケ) 感染症予防に努めながら、全ての教科で生徒の言語活動を充実させ、生徒の主体性と思考力を育む。
- (コ) 技術の時間を中心に、プログラミング教育を推進し、論理的思考力を身に着けさせる。
- (サ) がんに関する基本的な知識を習得させる。
- (シ) 自殺予防教育を生徒の発達段階に応じて行い、援助希求能力を育成するためハートフル教室を実施する。
- (ス) 英語村での体験的な学習を通し、異文化・自文化への理解を深め、外国語の活用能力を高める。

イ 道徳科

- (ア) 生徒に、全教育活動を通して、生徒によりよく生きるための基盤となる、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるとともに、自他を尊重する心と思いやりの心を育てる。
- (イ) 道徳教育推進教師を中心に全体計画・年間指導計画を作成し、本校の特色である話し合い活動を中心に特別の教科 道徳を実施する。また道徳授業地区公開講座を基に家庭、地域と連携して心の教育を推進する。

ウ 総合的な学習の時間

- (ア) 「生きる」を主題に、1年:地域に生きる、2年:社会に生きる、3年:共に生きる、というテーマで3年間を通して段階的に学習を進め、持続可能な社会づくりに必要な資質・能力を育成する。
- (イ) 探究や体験を通し、見学や調査、発表や討論等により学び方やものの考え方、効果的な発表方法を身に付け、自己の生き方を深く考える態度を養う。また、学校図書館や地域人材等を有効に活用する。
- (ウ) 学習指導要領の趣旨を踏まえた指導計画作成し、計画的、組織的に実施する。

エ 特別活動

- (ア) 生徒主体の学級活動、学校行事、生徒会活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。
- (イ) 生徒が互いの人権を尊重し、安心して生活できるあたたかい学級、学校をつくる。学級満足度調査を活用し生徒が安心できる学級経営を実践する。
- (ウ) 生徒会や部活動を中心にボランティアへの参加を奨励し、地域社会の一員としての自覚を高める。
- (エ) 組織的、計画的にキャリア教育を推進し、将来社会の有為な人材となる生徒を育成する。

(2)特色ある教育活動

ア 1組コミッティ等、特別支援学級と通常の学級の交流を一層推進し、全ての生徒にとって望ましい人間関係を構築し、自己実現を図ることができる共生社会の実現に向けた素養を育成する。

イ セーフティ教室や生徒会によるSNS自主ルールの取組により、生徒に確かな情報モラルを育成する。

ウ オリンピアン・パラリンピアンとの交流を継続し、スポーツに進んで取り組もうとする意欲の育成を図る。
また、道徳教育と関連させてパラスポーツへの理解を進め、「ハートフル昭和」をスローガンとした思いやりある行動と合わせて、昭和中学校のレガシーにする。

エ 生徒の話し合いによる「生活の決まり」の見直しを通して、生徒の自己指導能力を高める。

オ 生徒の主体性と個性の伸長を図る部活動を推進する。

カ サポートルームにより、将来の自立を目標に、教育支援員、諸機関と連携し別室登校の生徒を支援する。

キ スクールカウンセラー、支援員、図書ボランティア、外部人材の活用を推進する。同時に、職員の働き方改革を組織的に進め、効率的で効果的な教育活動を実施する。

ク 年間を通して、10分間の朝読書を行い、豊かな心の育成と読書活動の充実を図る。

ケ 小学生を対象に授業体験、部活動体験、音楽祭への招待を行い、相互交流、理解を図る。

コ 各種コンクール、コンテスト等に積極的に参加させ能力を向上し、優れた取組を生徒の模範とする。

サ 特別支援教室を適切に運営し、個に応じた指導、支援を拡充し、特別支援教育を一層充実させる。

(3) 生活指導・進路指導

ア 生活指導

- (ア) 規範意識と思いやりの心の育成に重点を置き、全職員で生命を尊重する精神と責任ある言動を身に付けさせ、授業規律の確立を軸に秩序ある校内生活を確立する。
- (イ) 不登校の未然防止のため魅力ある学校づくりを進めるとともに、適切な早期支援により長期化を防ぐ。生徒・家庭と学校とのつながりを継続させ、将来の生徒の社会的自立につなげる。
- (ウ) いじめ防止基本方針に基づくいじめ対策委員会、組織的な校内体制の構築と教育相談体制の充実、学級満足度調査や月毎の生活アンケート調査の活用などにより、諸問題の未然防止、早期発見、早期対応に努める。保護者・地域・関係機関との連携を推進し、社会のルールを守る生徒を育成する。
- (エ) 安全指導の年間計画に基づき、防災ノートや東京マイタイムライン等を活用した防災教育、情報モラル教育、交通安全教育、セーフティ教室、薬物乱用防止教室等を通して、安全に対する適切な配慮や的確な行動力、適切な情報活用能力を育成する。
- (オ) 特別支援学級との交流や、地域活動・校外学習を通して豊かな人間関係を育てる。また、地域行事への積極的な参加を促し、社会の一員としての自覚と社会連携意識を高める。
- (カ) 大学の教員や医師等の専門家との連携体制を整え、助言や指導をもとに生徒理解と指導を充実させる。
- (キ) ハートフル教室（「命の安全教室」）を中心にして、生徒に、SOSを出せ、援助を適切に希求できる力を養い、自傷行為や自殺を防止する。

イ 進路指導

- (ア) 職場体験、職場訪問等の体験的な活動や、生徒会、委員会、係活動を重視し、計画的・組織的な進路指導を進め、全体指導と個別指導を充実させる。一人一人の能力や個性に応じた生き方や職業選択能力、責任感を高め、望ましい勤労観や職業観を育て、キャリア教育の充実を図る。
- (イ) 生徒が社会人・職業人として真に自立できるよう、自らの生き方を考え主体的に進路を選択する能力と、望ましい勤労観・職業観・社会観・責任感を育む。
- (ウ) 上級学校説明会や都立（昭和）高校との交流を積極的に行い、体験を通して自己の能力や適性に応じた進路選択をする能力を養う。また、ハローワークや高等学校と連携し、進路に関する学びの機会を設け、希望や目標をもって、粘り強く自己実現を図る態度や、生涯にわたって主体的に学び続ける態度を育てる。
- (エ) キャリアアルバムの活用を進め、生徒に、将来の自己実現に向けて長期的、継続的に取り組む態度を育成する。

3 学年別授業日数及び授業時数の配当

(1)年間授業日数配当表

[illegible]

(2)各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動等の年間指導時数配当表

学 年		1	2	3
区 分				
各 教 科	国 語	141	141	105
	社 会	106	106	140
	数 学	141	106	140
	理 科	106	141	140
	音 楽	45	35	35
	美 術	45	35	35
	保 健 体 育	105	105	105
	技 術 ・ 家 庭	70	70	35
	外 国 語 (英 語)	141	141	140
	小 計	900	880	875
道 徳 科		36	36	36
総 合 的 な 学 習 の 時 間		50	76	71
特 別 活 動 (学 級 活 動)		42	42	38
総 計		1028	1034	1020
選 択 教 科	国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 外国語 (英語)			
	国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 外国語 (英語)			
	国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 外国語 (英語)			
備 考				
ア 1単位時間				
1単位時間は50分とする。				

備	考
<p>イ 特別活動</p> <p>(f) 特別活動(学級活動)の時間は全学年一斉に月曜日の6校時に設定し、年間を通して35週以上にわたって授業を実施する。</p> <p>(i) 特別活動における生徒会活動は、年間を通して5時間を配当する。内訳は、 新入生歓迎会 (2) 前後期生徒総会 (2) 生徒会役員選挙 (1) とする。</p> <p>また、生徒の自治意識向上のために日常の委員会活動の充実を図る。活動時間の補充は「その他の活動の時間」で行う。</p> <p>(u) 第1学年の移動教室は自然体験及び生涯スポーツの観点から、スキー体験学習を実施する。</p> <p>(r) 第2学年の校外学習等の活動は、総合的な学習の時間とも関連させ、体験学習・調べ学習を効果的に取り入れながら実施する。</p> <p>(o) 第3学年の修学旅行は関西方面とする。日本の文化財の見学に加え、伝統工芸や伝統芸能の体験学習を実施し、日本人としてのアイデンティティの確立と国際理解を深める一助とする。</p> <p>ウ その他</p> <p>(f) 朝学活の後の10分間を朝読書の時間とし、豊かな心の育成と読書活動の充実を図る。</p> <p>(i) 第1学年で職場訪問2時間、第2学年で職場体験を3日間行い、望ましい勤労観・職業観を育てる。</p> <p>(u) 夏季休業中の三者面談、4月15日、5月13日、1月13日の土曜日授業の実施の工夫で授業時数の確保に努める。</p>	

第5表の1

学校名 昭島市立昭和中学校

学校行事

月	4	5	6	7	8	9
曜・行事	曜	行事	曜	行事	曜	行事
1	土		月		木	ふれあい月間開始 体力・運動能力調査始
2	日		火	スケアードストリート	金	
3	月		水	憲法記念日	土	
4	火		木	みどりの日	日	
5	水	春季休業日終	金	こどもの日	月	学級満足度調査
6	木	始業式	土		火	
7	金	入学式	日		水	
8	土		月		木	
9	日		火		金	
10	月	定期健康診断開始	水		土	開校記念日
11	火	給食始 安全指導	木	避難訓練	日	
12	水		金		月	安全指導
13	木		土	学校公開	火	
14	金		日		水	小中連携の日
15	土	土曜授業日 セーフティ教室	月		木	
16	日		火	中間考査	金	自殺予防(3)
17	月		水	中間考査	土	
18	火	全国学力・ 学習状況調査(3)	木		日	
19	水		金	お弁当の日	月	水泳指導始
20	木	避難訓練	土		火	
21	金		日		水	
22	土		月	安全指導	木	避難訓練
23	日		火		金	
24	月		水		土	
25	火		木		日	
26	水		金		月	
27	木		土	体育祭 お弁当の日	火	
28	金		日		水	期末考査始
29	土	昭和の日	月	振替休業日	木	
30	日		火		金	期末考査終 体力・運動能力調査終 ふれあい月間終 定期健康診断終
31			水		月	

始業式
安全指導
避難訓練

給食始

避難訓練

職場体験学習(2)始

職場体験学習(2)終

修学旅行(3)始

修学旅行(3)終

秋分の日

安全指導

実用英語技能検定(3)

夏季休業日終

第5表の2

学校名 昭島市立昭和中学校

月	10	11	12	1	2	3
曜・行事	曜 行 事	曜 行 事	曜 行 事	曜 行 事	曜 行 事	曜 行 事
1	日 都民の日	水 ふれあい月間始	金	月 元日	木 避難訓練	金
2	月	木	土	火	金	土
3	火	金 文化の日	日	水	土	日
4	水	土 東京都教育の日	月	木	日 移動教室(1)始	月
5	木 小中連携の日	日	火	金 冬季休業日終	月	火
6	金	月	水	土	火 移動教室(1)終	水
7	土	火	木	日	水 振替休業日(1)	木 避難訓練
8	日	水 道徳授業地区公開講座	金	月 成人の日	木 小中連携の日	金 救急救命講習(2)
9	月 スポーツの日	木	土	火 始業式 安全指導	金	土
10	火 中間考査始	金	日	水 給食始	土	日
11	水 中間考査終	土 学校公開	月 安全指導	木	日 建国記念の日	月 安全指導
12	木 避難訓練	日	火	金	月 振替休日	火
13	金	月 振替休業日	水	土 学校公開	火	水
14	土	火	木	日	水	木
15	日	水 期末考査始	金	月	木 小中連携の日	金
16	月 安全指導	木	土	火	金 小中連携の日	土
17	火	金 期末考査終	日	水	土	日
18	水	土	月	木 避難訓練	日	月 卒業式
19	木	日	火	金	月 安全指導	火
20	金	月	水	土	火	水 春分の日
21	土	火	木 避難訓練	日	水 お弁当の日	木 給食終
22	日	水	金 給食終	月	木	金
23	月	木 勤労感謝の日	土	火	金 天皇誕生日	土
24	火	金 避難訓練	日	水	土	日
25	水	土	月 終業式	木 校外学習(2)	日	月 修了式 離任式
26	木 音楽祭 小中連携の日 お弁当の日	日	火 冬季休業日始	金	月	火 春季休業日始
27	金	月 安全指導	水	土	火 期末考査始	水
28	土	火	木	日	水	木
29	日	水	金	月	木 期末考査終	金
30	月	木 体験型英語学習(2) 職場体験活動(1) ふれあい月間終	土	火		土
31	火		日	水		日

令和5年度 教育課程補助資料（取組一覧）中学校

学校名 昭島市立昭和中学校 記載者 原島 芳郎

※セルがたりない場合は付けたしてください。ページの増加も可です。

1 昭島市立学校の教育課程編成時の留意事項に関すること

（1）学習指導要領の基本方針を踏まえた学校で「育てたい資質・能力」

- ① 基本的な知識・技能の確実な習得。
- ② 柔軟な思考力、適切な判断力、豊かな表現力等。
- ③ 主体的に学ぼうとする力・態度、感性、やさしさや思いやりなどの人間性。
- ④ より高い言語能力、話し合う能力の継続的な育成。
- ⑤ 自身の心身の健康と、周囲との適切な関係を構築する能力の育成。
- ⑥ 生涯を通して、主体的に自らの資質・能力を高め、社会に貢献しようとする態度。

（2）教育課程の中で重点化・焦点化した項目について

- ① 課題解決能力の基本となる知識、技能、思考力、判断力、表現力等の、対話的で深い学び。
- ② 心身の健康、適切な関係性の構築効力の育成。
- ③ 発達段階に応じた指導による健全な育成、SDGsの観点から環境教育を包括的に推進。
- ④ 外部人材の活用による、多様な生徒支援と教員の校務補助による働き方改革の推進。
- ⑤ 体験的活動、集団での活動を通じた自己肯定感の育成と、他者理解の深化、望ましい関係性の構築。
- ⑥ ICTを活用した授業改善の推進。
- ⑦ 生徒の話し合いによる「生活のきまり」の見直しを通して、自己指導能力を高める。

（3）学校評価（全ての評価）の結果を反映した具体的な内容について

- ① 学力向上のための、家庭学習の習慣化と、学習スキル獲得の指導。
- ② キャリア教育推進のための、家庭との連携と情報提供の拡充。
- ③ 家庭と連携したSNSに関する指導のための、生徒の主体的なSNSに関する取組。
- ④ 生徒と教員の信頼関係の構築と、学校全体の相談能力の向上。

2 特色ある教育活動について

（1）校内研究・研修について

ア 校内OJT（若手教員の育成含む）の取組について

- ① 身に付けることが求められる資質・能力を明確にした、副校長、主幹教諭、主任教諭が担当となったOJTの実施。
- ② 若手教員への管理職による年3回の授業観察による個別指導。
- ③ 若手教員への分掌業務の分担と、主幹教諭、主任教諭による助言と指導による校務担当能力の育成。

イ 令和5年度予定している校内研究・校内研修について

研究主題（予定）	学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の実施と、タブレット端末を活用した授業改善の推進。		
教科・領域等	各教科・道徳科・特別活動・総合的な学習の時間		
校内研究・研修回数	5回（うち研究授業 1回）	講師の招聘予定回数	2回

(2) 習熟度別指導について（違いがあれば学年ごとに記入）

ア 数学について

実施学年	展開方法（○学級○展開）
1・2・3	2学級3展開、1学級2展開

イ 外国語について

実施学年	展開方法（○学級○展開）
1・2・3	2学級3展開、1学級2展開

(3) 地域人材（ゲストティーチャー）等の活用について

学年	内容とゲストティーチャーの肩書き	学年	内容とゲストティーチャーの肩書き
1	職場訪問（地域の企業等）	全	学習支援（地域の大学生、社会人）
2	職場体験（地域の企業等）	全	自立支援（民生児童委員・大学生、社会人）
3	福祉講演会（視覚障害者サークル）	全	図書ボランティア（保護者）
3	国際理解教育（留学生）		

(4) ICTの活用について（1学年3例記入）

【タブレットの台数420台】

学年	主な活用場面
1	教科学習、特別の教科道徳、総合的な学習の時間、特別活動（学級活動、生徒会、部活動、行事）等
2	教科学習、特別の教科道徳、総合的な学習の時間、特別活動（学級活動、生徒会、部活動、行事）等
3	教科学習、特別の教科道徳、総合的な学習の時間、特別活動（学級活動、生徒会、部活動、行事）等

(5) 学校 2020 レガシー教育について

ア 学校のレガシー

- ① 「ハートフル・昭和」の推進で培われた、寛容で心あふれる教育の実践。
- ② 70年間で培われた、PTA、地域社会との信頼関係と連携体制。
- ③ 積み重ねている「主体的・対話的で深い学び」と振り返りの実践。
- ④ 本校の授業の柱となっている、生徒の話し合い活動。

イ 主な取組

学年	主な取組
1	「地域に生きる」をテーマとした、地域で活躍する人材と業績の理解、敬意の涵養。
2	「社会に生きる」をテーマとした、都や国から世界で活躍する人材と業績の理解、自身の生き方への取入れ。
3	「共に生きる」をテーマとしたスポーツを中心とした障害者への理解と、共生社会への参画意識の涵養。

3 行事・その他 確認事項

(1) 運動会について

実施日	開会式開始時刻	午前の部	午後の部	雨天時予備日
5月27日（土）	9時00分	9時00分 ～0時15分	未定	5月31日（水）

(2) 文化的行事（学芸関係行事・展覧会・音楽会・合唱コンクール等）について

内容	実施日	開始時刻
音楽祭	10月26日（木）	10時00分

(3) 道徳授業地区公開講座について

実施日	授業開始時刻	意見交換会（講師）の内容（具体的に）
11月8日（水）	13時30分	保護者・地域・教員による意見交換、講演

(4) セーフティ教室について

【実施日 4月15日（土）】

学年	実施内容（具体的な活動・ゲストティーチャー）
全	いじめ防止講演会（KDDIによる講演会）

(5) 宿泊行事について（上の学年から記載）

学年	実施日	行き先（市町村まで記入）	宿泊先	一人の経費（補助金含む）
3	9月20日（水）～9月22日（金）	京都府・奈良県	旅館 平新	60,000円
1	2月4日（日）～6日（火）	長野県 下高井郡	ホテル銀嶺	50,000円

(6) 家庭訪問について

【実施の有無： ☒ 有 ☐ 無】

学年	実施日
特別支援学級 1・2年	5月9日（火）～5月15日（月）

(7) 学校公開日の日程（曜日）について（平日と土日、行事等も含む・週間等の場合は「～」を用いる）

1	5月13日（土）	2	5月27日（土）	3	10月26日（木）	4	11月8日（水）
5	11月11日（土）	6	1月13日（土）	7		8	